

地域農業の概況・課題

- ・現役農家の高齢化に対して新規参入が追い付いていない。地域によっては農地の荒廃化が進んでいる状況。
- ・農業に新規参入したくても支援体制の整った地域がなかなかない。特に環境保全型農業を目指す者にとっては厳しい状況。
- ・国が環境負荷の低い農業への転換を進めていっているが、新規参入者にとっては技術的に非常にハードルの高いものとなっている。
- ・生産に追われ、販路開拓や周辺農家との情報交換などに費やす時間が作れない新規就農者が多い。技術的、精神的に頼れるパートナーや協力者を求めている。

事業の方針

当組合では農業(ここでは特に有機農業に特化する)に新規参入しようと研修を希望する者に対し、
・土作りからの一貫した技術的指導
・各種勉強会、部会の開催
・営農環境(農地や住居)の準備
・就農後の技術的フォローや販売先の斡旋
などの支援、サポートを各機関と連携して行う。
技術指導においては、現役農家や直営農場での実習を多く取り込むことでより実践的に有機農業が学べる環境とする。
また、就農後の販路に関しては組合と直営店舗で全量引き受ける。生活面に関しても周辺農家や住民、行政と協力して全面的にバックアップする体制を整え、新規就農者が地域に根付いて農業ができるようにする。その他、地域や近辺の先輩農家との情報交換の場も用意する。

事業目標・成果

5名の研修生を受け入れ、カリキュラムに沿った研修を受けてもらう。この研修を受けた研修生全員が地域で就農し、その後も継続して営農を続けていくことを目標とする。

(支援、サポート体制)

鹿児島県農政部
(地域振興局)

- ・技術指導 ・座学の開催
- ・最新技術の紹介
- ・情報提供 など

鹿児島有機農業技術支援センター
(かごしま有機生産組合)

- ・技術指導 ・販売実習 (店舗)
- ・販売請負 ・情報提供
- ・座学、講習会の開催

鹿児島県始良市
(農政課)

- ・生活支援 ・情報提供
- ・住居、農地の斡旋
- ・助成金の案内 など

支援・サポート

就農希望者・研修希望者・移住希望者

支援・サポート

始良市有機農業推進協議会

- ・生活支援
- ・各種助成金の紹介
- ・その他、有機農業支援

かごしま有機農業推進協議会

- ・各品目部会の開催
- ・有機農業フォーラムの開催
- ・技術指導講習会、座学

南種子役場

- ・種子島への移住サポート
- ・有機農家誘致
- ・農地、住居の情報提供

取組内容(新規就農サポ-ト体制の構築)

実施スケジュール

<p>(1) 新規就農サポ-ト体制構築・推進委員会の設置 各機関の関係者が集まり、就農希望者に対してどのようなアプローチをし、いかにして充実した内容の研修が受けられるかを検討する。また、地域への就農、その後のサポ-ト体制についても協議する。</p>	令和3年10月～11月 令和4年2月
<p>(2) 受入プログラムの作成 ・県内各地(種子島含む)の組合加盟生産者にアプローチし、実地研修の受入れ協力依頼をする。 ・研修カリキュラムの整備、各機関との内容確認 ・研修と就農準備を同時進行するための準備、各機関との連携体制の確認。 ・就農後のサポ-ト体制の構築、各機関との連携体制の確認。</p>	令和3年10月～令和4年2月
<p>(3) 新規就農者に対する相談体制の整備 ・研修指導員による定期的な圃場回り(1回以上/月)。 ・各種支部会、品目部会への参加の呼びかけ。 ・組合加盟生産者で構成しているグループLINE(R3・7月時点で75名が参加)への招待。情報交換、悩み相談など様々な交流ができる。</p>	令和3年10月～令和4年2月
<p>(4) 研修プログラムの作成 ・実地研修は月～金曜日とし、作業の状況に応じて直営農場に入るか受け入れ農家に入るかを定める。 ・月に2回の座学の実施(午前:研修指導員による講義 午後:地域振興局の技術専門員による講義) ・各支部で年に2回ずつ行う支部会への参加(5支部×2回=10回) ・各種品目部会、現地検討会への参加(年間約10回)</p>	令和3年10月～令和4年2月
<p>(5) 新規就農者募集に係る広報活動 ・かごしま有機生産組合のHPにて募集 ・地域振興局、農政課の窓口での紹介 ・有機農業参入促進協議会のHPでの募集 ・就農相談会への参加による募集 ・パンフレットの刷新</p>	令和3年9月～令和4年2月
<p>(6) 地域の福祉関係機関・団体との連携 ・特定非営利活動法人ビッグハート(鹿児島市)、社会福祉法人なのはな村と連携しており、今後、新規就農者への援農体制を構築していく。</p>	令和4年2月～令和4年10月

取組内容(新規就農サポートの実施)

実施スケジュール

<p>(1) 農業就農体験、現地見学会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none">・現地見学会は随時受入れ、研修指導責任者が対応する。・希望者には直営農場と提携農家で5日～10日間の体験を行ってもらう。・就農希望地の提携農家との交流会を開催する。・これらの体験結果をもとに、実施主体と希望者で十分に協議し、研修を受けるか否かの判断をする。	令和3年10月～令和4年2月
<p>(2) 農業技術に関する研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none">・組合直営農場での実地研修・提携農家での実地研修・各種座学、土壌分析実習・各地域ごとの部会、各品目ごとの部会	令和4年4月～令和5年2月
<p>(3) 農地等のあっせん・確保</p> <ul style="list-style-type: none">・県内150戸の組合加盟農家からの情報によって確保。・組合加盟農家の協力のもと、農政課や農業委員会を通して情報を入手する。・組合加盟農家の余っている土地の譲り受け	研修開始後、就農予定地域が決まり次第情報収集を開始する。
<p>(4) 新規就農サポート人材によるフォローアップ</p> <ul style="list-style-type: none">・研修終了後も研修指導責任者や研修指導員が月に1回以上は圃場に行って新規就農者と直接会い、圃場や経営状況の確認をする。・状況次第では研修指導員や直営農場スタッフでヘルプ、サポートに入る。・女性の就農者に対しては女性の先輩農家によるサポートを行う。子育て支援として援農費用を免除するなどの措置を用意。・福祉施設との連携による援農。・まずは農業次世代人材投資資金にもある、年間250万円の所得目標に向けて経営の後押しをする。	令和5年3月以降継続的に
<p>(5) 生活面での支援</p> <ul style="list-style-type: none">・住居に関しては農地と同様、組合加盟農家と農政課の協力で情報収集を行う。・生活資金に関しては地域振興局や農政課と連携し、速やかに農業次世代人材投資資金の申請や各種助成の申請ができるよう体制を整えている。・生産物の販売に関しては組合が全量引き取りをするため、農家は生産に注力できる。	令和5年3月以降継続的に
<p>(6) 就農後のスキルアップ支援</p> <ul style="list-style-type: none">・研修責任者、研修指導員、地域振興局の普及員による定期的な圃場巡回、営農指導。・各種座学、講義への参加は研修終了後も無料で参加可能。開催の案内も流す。・組合加盟農家で構成しているグループLINEへの参加。技術的な問題解決や悩み相談に活用してもらう。	令和5年3月以降継続的に

〈活動経過(9月～現在)〉

- 1日インターン募集の呼びかけ
 - ・ 植え付け、収穫体験を中心に農業体験を実施
 - ・ 大学生インターンや高校生インターンの受入れ
- 泊まり込みインターンの募集、受入れ
 - ・ 2名の泊まり込みインターンの受入れ
 - ・ 10日間と2週間の農業体験指導を行っている。
 - ・ 2月にも4名の泊まり込みインターンの受入れを予定。
- 研修生1名、研修開始
 - ・ 2月から通いでの研修。
 - ・ イベントで配布したパンフレットを見て応募。
- 見学会の実施
 - ・ 技術支援センターの見学、研修農場の視察を実施
 - ・ 7名の見学者を受け入れ。
- パンフレットの刷新
 - ・ 技術支援センターのパンフレットの刷新
 - ・ 各連携機関の協力体制を新たに追加
- 各種イベントへの参加、広告の掲載
 - ・ 農業人フェア（大阪、東京）への参加
 - ・ オーガニック取扱い宅配業者の冊子への広告掲載
 - ・ 新聞への広告掲載（種子島）を2月に予定
- 受入れ農家選考のための生産者回り